



醫
 鼻
 蛆
 解
 剖
 圖
 說
 全
 附
 醫
 鼻
 病
 圖
 說

非賣品

5179



○蠶體內外形器圖解

第一圖蠶躰ノ右側面

- (イ) ハ首領ナリ
- (ロ) ハ右側ノ鱗殻ナリ
- (ハ) ハ右側六個ノ連列セル眼ナリ(是ハ單眼
ニシテ且近眼ナリ各々位置異ナレモ視
神經一ツニシテ一眼ト異ナルヲナシ)
- (ニ) ハ大索手(觸聽ノ二感ヲ司トル)
- (ホ) ハ中索手(觸感嗅感ヲ司トル)
- (ヘ) ハ吐絲ノ疣ナリ(疣上ニロアリテ絲ヲ吐
シテ司トル食口トハ異ナリ混スヘカラス
- (ト) ハ全身十二個ノ輪節ナリ
- (チ) ハ右側九個ノ氣門ナリ
- (リ) ハ右側三個ノ胸足ナリ
- (ヌ) ハ右側四個ノ腹足ナリ
- (ル) ハ右側ノ壓足ナリ

- (チ) ハ尾角(是ハ体量ノ平均ヲ執ル)作用ヲ
ナス
- (ワ) ハ連鉤爪(是ハ腹足ニ逆生ノ纏着ヲ司トル
- (カ) ハ肛門ナリ
- (ヨ) ハ半月狀ノ斑點(是ハ第二ノ點ノ直下
内部ニ生殖器アリ)

第二圖蠶躰ノ背面

- (タ) ハ甲額ノ鱗殻ナリ
 - (ロ) ハ右側ノ鱗殻ナリ
 - (レ) ハ半月狀ノ斑點ナリ
 - (チ) ハ尾角ナリ
 - (ツ) ハ胸部ナリ
 - (ツ) ハ腹部ナリ
 - (カ) ハ肛門ナリ
- 第三圖背皮ノ内部ニ在テ運動ヲ司
トル器械

(子) ハ縦筋ナリ
 (ナ) ハ斜筋ナリ
 (ラ) ハ筋ノ兩端末外皮ニ接入ル部ナリ
 (ム) ハ諸筋ノ近傍ニ蔓延セル氣管ナリ
 (ウ) ハ外皮ヲ切斷セル部ナリ
 第四圖血液循環ノ器械及ヒ陰具
 (キ) ハ血液筋ナリ
 (ノ) ハ全身中ニ循環シ血液ヲ輸出スル前孔ナリ
 (オ) ハ全身中ヨリ還收スベキ血液ヲ輸入スル後孔
 (シ) ハ後孔ヲ外皮ニ密接スル筋ナリ
 (ヤ) ハ三角狀ニ屯集シテ脈搏ヲ司ルノ十個ノ筋ナリ
 (マ) ハ三角狀筋ノ根部血液筋ニ接續セル部ナリ

(ケ) ハ三角狀筋ノ尖頭ノ外皮ニ接續セル部ナリ
 (フ) ハ筋中ハ血液ノ充張セル部ナリ
 (コ) ハ血管ノ虛縮セル部ナリ
 (エ) ハ蛾躰ニ化シタル時陰具トナルモノナリ
 第五圖養育ヲ司ル器械及ヒ分泌器械
 (ア) ハ輸食管ナリ
 (サ) ハ胃腑ナリ
 (キ) ハ小腸ナリ
 (ユ) ハ盲腸ナリ
 (ス) ハ直腸ナリ
 (カ) ハ肛門ナリ
 (ミ) ハ糞桑ヲ消化スル處ノ唾腺ナリ
 (エ) ハ胃腑ノ丈面ニ在ル處ノ複曲セル膀胱管ナリ

(ヒ) ハ纏擽セル膀胱管ナリ
 第六圖呼吸ヲ司ル器械
 (チ) ハ氣門(蠶ハ口ヨリ呼吸セズシテ氣門ヨリ呼吸ヲナス
 (モ) ハ本氣管ナリ
 (ヒ) ハ横氣管ナリ
 (ス) ハ枝氣管ナリ
 (イ) ハ卵狀管ナリ
 (ろ) ハ横氣管ヲ外皮ニ密接スル筋ナリ
 第七圖絲線ヲ吐績スル器械及ヒ脂肪
 (ハ) ハ會合輸絲管ナリ
 (ニ) ハ細線ノ輸絲管ナリ
 (ほ) ハ絲膠質ヲ醸ス所ノ肥膨セル絲膠管ナリ
 (へ) ハ絹絲ノ元質ヲ作造スル所ノ細長ナル絲質管

(エ) ハ絲線ノ粘着スル所ノ蠟質ヲ産スル蠟質管
 (チ) ハ蠶ノ全身中ニ充ル所ノ脂肪ノ總ナリ
 (リ) ハ脂肪ニ屬スル氣管ナリ
 第八圖神經ノ器械
 (ぬ) ハ十三個ノ會球ヲ有テル神經鎖ナリ
 (る) ハ會場球ナリ
 (を) ハ神經索ナリ
 (わ) ハ首頭中ニ岐別セル神經枝ナリ
 (か) ハ右側ニ岐別セル神經枝ナリ
 (よ) ハ左側ニ岐別セル神經枝ナリ
 第九圖腹皮ノ内部ニ在テ運動ヲ司ル器械
 (た) ハ縦筋ナリ
 (れ) ハ斜筋ナリ

(ろ) ハ筋ノ両端末外皮ニ接入セル部ナリ
(つ) ハ筋ノ下面ヲ貫通セル氣管ナリ

第十圖蠶躰ノ腹面

(タ) ハ甲額ノ鱗殼ナリ
(レ) ハ左右ノ鱗殼ナリ
(ハ) ハ左右十二個ノ眼ナリ
(ニ) ハ左右ノ大索手ナリ
(ホ) ハ左右ノ中索手ナリ
(ネ) ハ左右ノ小索手ナリ(一名成繭手ト云フ
繭ヲ組織スルヲ司トル
(〜) ハ吐絲ノ疣ナリ
(な) ハ左右二枚ノ顎ナリ
(ら) ハ上唇ナリ
(り) ハ左右六本ノ胸足ナリ
(ス) ハ左右八本ノ腹足ナリ
(ル) ハ左右二本ノ壓足ナリ

(カ) ハ肛門ノ部ナリ
○蠶蛾解剖圖解

(イ) ハ頭ナリ
(ロ) ハ眉(一ニ觸角ト云フ觸感聽感臭感ヲ兼司ル
(ハ) ハ前羽ナリ
(ニ) ハ後羽ナリ
(キ) ハ空氣囊ナリ(是ハ蠶ノ時ハナキ者ナレハ蛹ト變ジ蛾ト化スニ當リ化學的作用ニヨリ生セシモノニテ内藏氣ハ瓦斯体ナリト云フ)
(〜) ハ空氣囊ヨリ古キ胃腑ニ接スル管ナリ
(ト) ハ古キ胃囊(是ハ蠶ノ時ハ專ラ營養ヲ主トスル故甚大シ殆ト蠶身三分ノ二ヲ占メタリ蛾ト變ジテハ此用ヲ缺ク

故縮少セシナリ

(チ) ハ古キ胃囊ヨリ尿管ニ接スル管ナリ
(リ) ハ尿管ナリ
(ス) ハ尿管ヨリ肛門マデノ管ナリ
(ル) ハ咽管口ナリ
(チ) ハ古キ絲囊ナリ
(ワ) ハ古キ尿管ナリ
(カ) ハ陰囊ナリ
(ヨ) ハ陰囊ノ陰精虫ナリ
(タ) ハ陰囊ノ陰莖ニ接スル管ナリ
(レ) ハ陰精液ヲ醸ス處ナリ
(ツ) ハ陰精液ヨリ貯精囊ニ接スル管ナリ
(ツ) ハ貯精囊ナリ
(チ) ハ陰精囊ヨリ陰莖ニ接スル管ナリ
(ナ) ハ陰莖ナリ
(ヲ) ハ陰莖ヲ延縮スル筋ナリ

ハ雄雌ノ陰具ノ總形ナリ

(ハ) ハ雄雌ノ陰具ノ總形ナリ
(ウ) ハ肛門ナリ
(井) ハ雌蛾ノ陰具ノ瘤ヲ握ム鈎ナリ
(ノ) ハ雄蛾陰具ノ經界ナリ
(オ) ハ雌蛾ノ陰門ナリ
(ク) ハ雌雄ノ肛門ナリ
(ヤ) ハ産卵門ナリ
(マ) ハ陰具ノ瘤ナリ
(ケ) ハ陰門ヲ開閉スル蓋ナリ
(フ) ハ雌蛾陰具ノ經界ナリ
(コ) ハ雌雄ノ羽毛ナリ
(エ) ハ雄蛾ノ精蟲液ヲ貯藏スル囊ナリ
(テ) ハ精蟲液ヲ産卵管ニ輸送スル管ナリ
(ア) ハ(ヨ)ノ精蟲カ(ス)ノ卵口ニ入テ其餘羸ヲ(サ)ノ豫備囊ニ輸送スル管ナリ
(サ) ハ精蟲ノ餘羸ヲ貯ル豫備囊ナリ

- (キ) ハ卵殻ヲ塗包スル膠質ヲ貯フル處ナリ
- (コ) ハ膠質ヲ醸生スル處ナリ
- (メ) ハ膠質ノ殻ヲ塗包スル處ナリ
- (ミ) ハ卵巢ノ根元ヲ分散スル者ナリ
- (シ) ハ卵巢ノ根元ヲ未ダ分散セザルモノナリ
- (エ) ハ卵巢ナリ
- (ヒ) ハ各卵巢ヲ一ノ産卵管ニ合併スル處ナリ
- (モ) ハ卵殻ノ入精ヲ示セルモノナリ
- (セ) ハ膚皮ナリ
- (ス) ハ尾端ナリ
- (甲) ハ眉ノ神經ナリ
- (乙) ハ目ノ神經ナリ
- (丙) ハ神經ノ會場ナリ
- (丁) ハ諸ノ岐出神經ナリ

○ 蠶病圖解説

- 第一圖ハ無病蠶ナリ
- 第二圖ハ細蠶即チ微粒子病ニ罹リタルモノナリ健蠶ヨリ細小ニシテ眠起ノ遅ル、ノミ其色ニ至テハ略ホ健蠶ニ全シ
- 第三圖ハ細蠶ニ黒痣ヲ生シタルモノナリ佛伊獨等ノ蠶ハ微粒子病ニ罹ルトキハ必ス黒痣ヲ生スト雖ヒ本邦ノ蠶ハ否ラス是レ彼我風土ノ異ナルニ依ルモノナラン歟本病ノ遺傳セシ卵ハ其形狀大抵不正ニシテ殊ニ甚タシキモノハ茶褐色ヲ呈ス
- 第四圖甲ハ無病ノ卵全乙ハ微粒子(黒痣病ノ毒)ノ多ク遺傳シタル卵ヲ大キク畫キシモノナリ
- 第五圖ハ三百七十五倍ノ顯微鏡ヲ以テ細蠶ノ体液中ニアル微粒子ヲ示セルモノナリ
- 第六圖ハ三百五十倍ノ顯微鏡ヲ以テ卵液中ニアル微粒子ヲ示セルモノナリ
- 第七圖甲ハ微粒子ヲ大キク畫キタルモノニシテ全乙ハ微粒子ノ變形ヲ示シタルモノナリ之ヲ顯微鏡下ニ照ラシテ看ルハ率チ二個ノ圓點アリ即チ甲(イ)ノ如シ稀ニハ此點夥多アリテ砂ヲ含メルカ如キ狀ヲ爲スモノアリ(ロ)ノ如シ又全ク透明ニ

シテ圓點ナキモノアリ(ハ)即チ是ナリ

第八圖ハ微粒子ノ蕃殖スル狀ナリ蠶蛹及ヒ蛾ニ寄生セルモノハ其一体中ヨリ夥多ノ粒子ヲ生シテ倍々蕃殖シ其卵及ヒ蠶ノ腸壁中ニ寄生セルモノハ(乙圖)ノ如ク一体中ニ一以上相聯續シ其成長ニ隨ヒ遂ニ分離シテ蕃殖スルモノナリ

第九圖ハ顯微鏡ヲ以テ微粒子ノ有無ヲ検査スル狀ナリ抑モ蠶卵ニ微粒子病ヲ含有スルヤ否ヲ検査セント欲セバ先ツ卵紙ノ全面ヨリ卵子凡ソ百粒ヲ擦リ落シ其内ヨリ赤褐色或ハ茶褐色ナルモノ五十粒ヲ撰ヒテ之ヲ十分シ一分毎ニ之ヲ乳鉢ニ盛リ(第十二圖甲)乳棒(全圖乙)ニテ苛性加里ノ稀薄液一二滴ヲ加ヘテ能ク磨碎シ其内一滴ヲ物体硝子ニ點シ蓋覆硝子ヲ掩フ第十一圖ノ如クシ之ヲ物体臺上ニ載セテ覗ク第九圖ノ如クシテ四隅及ヒ中央ヲ丁寧ニ觀察シ每鏡面微粒子ノ有無ヲ檢シ病毒ノ歩合ヲ定ムヘシ

第十圖ハ顯微鏡ノ要部ヲ分解シテ示セルモノナリ即チ(甲)ハ接眼鏡(乙)ハ對物鏡(丙)ハ上ヨリ見タル圖(ロ)ハ側見タル圖ニシテ(丁)ハ物体鏡ナリ

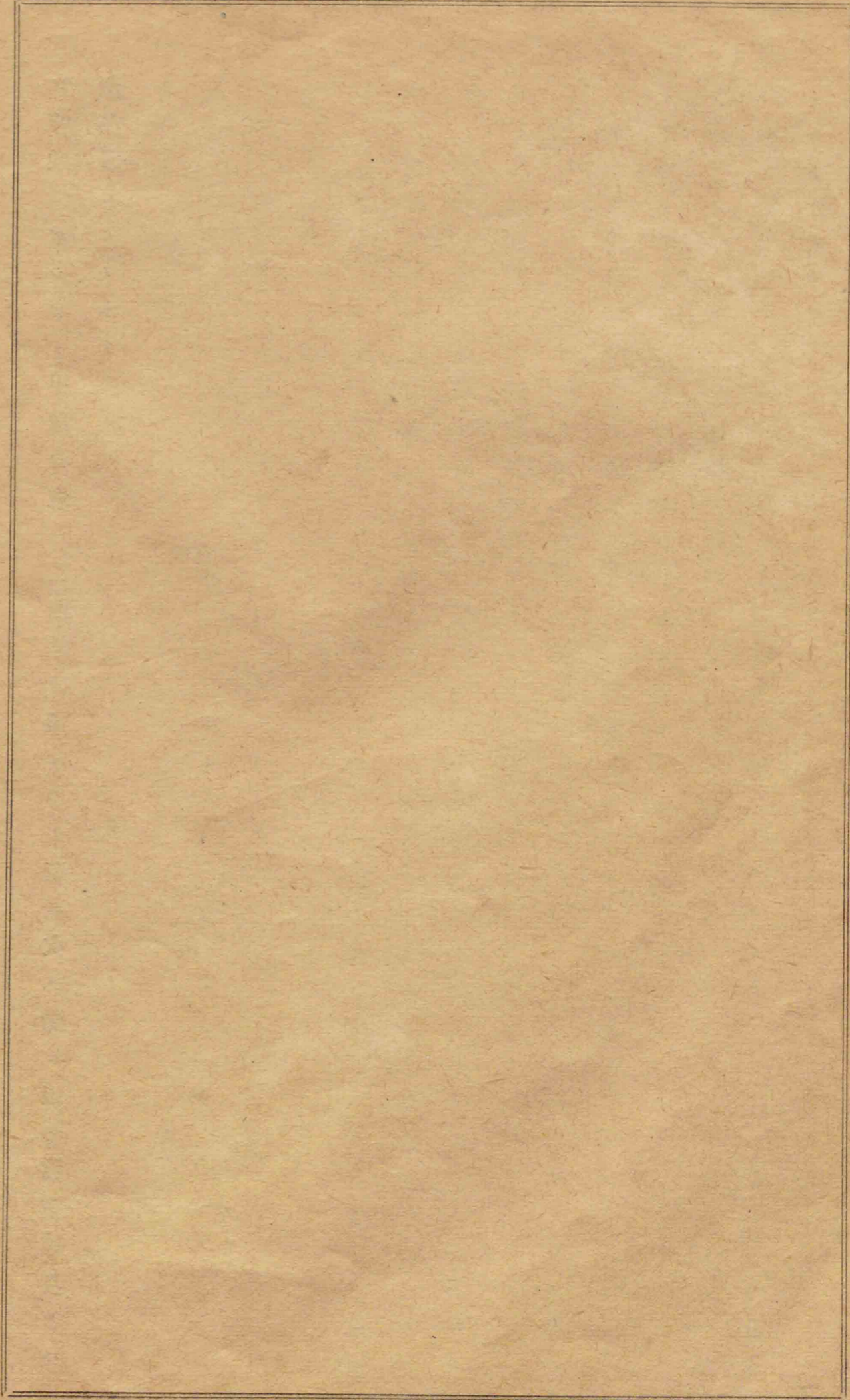
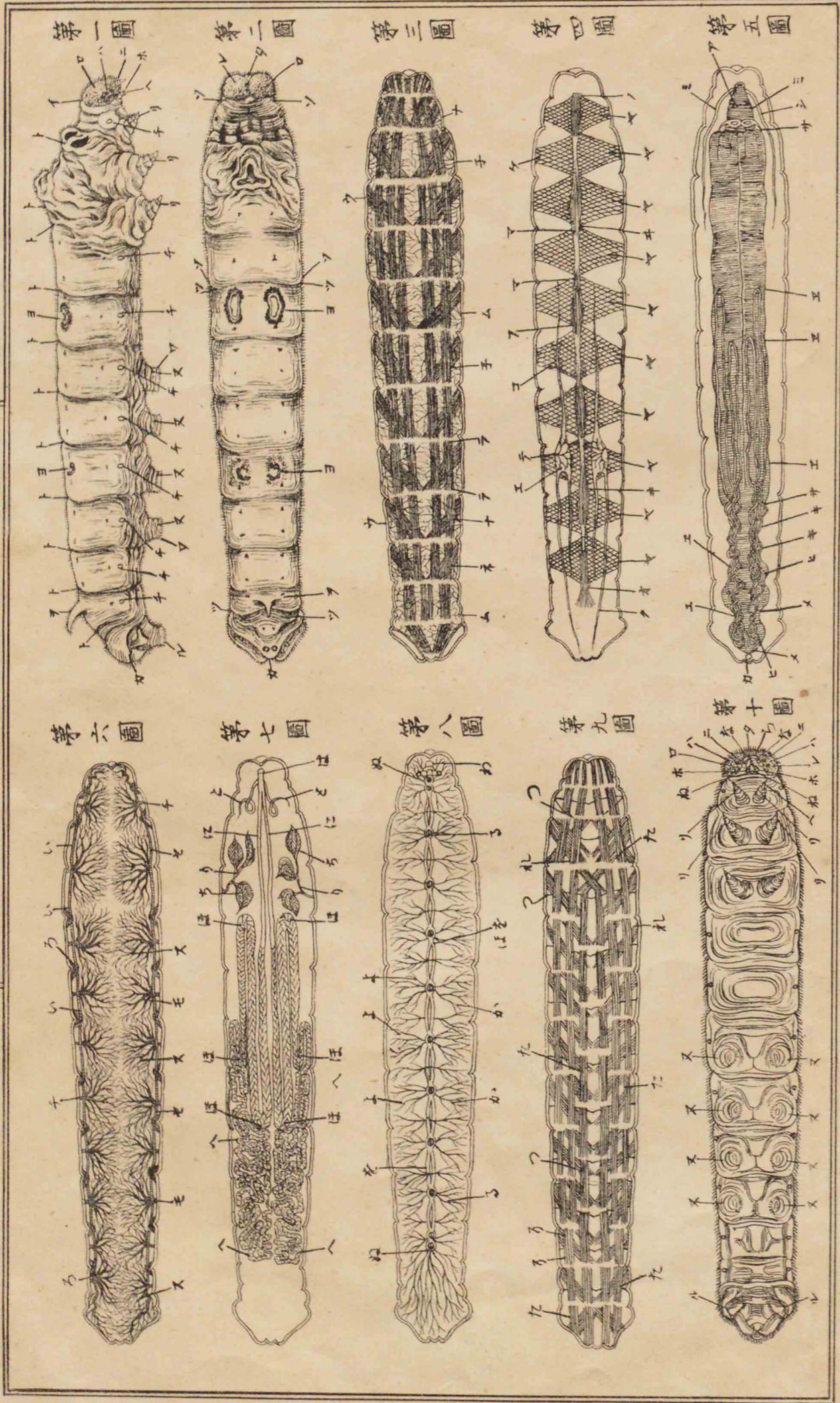
第十一圖ハ顯微鏡ニテ検査スル物体ヲ載スル硝子板ナリ

第十二圖ハ(甲)ハ卵ヲ磨碎スル乳鉢ニシテ(乙)ハ乳棒ナリ

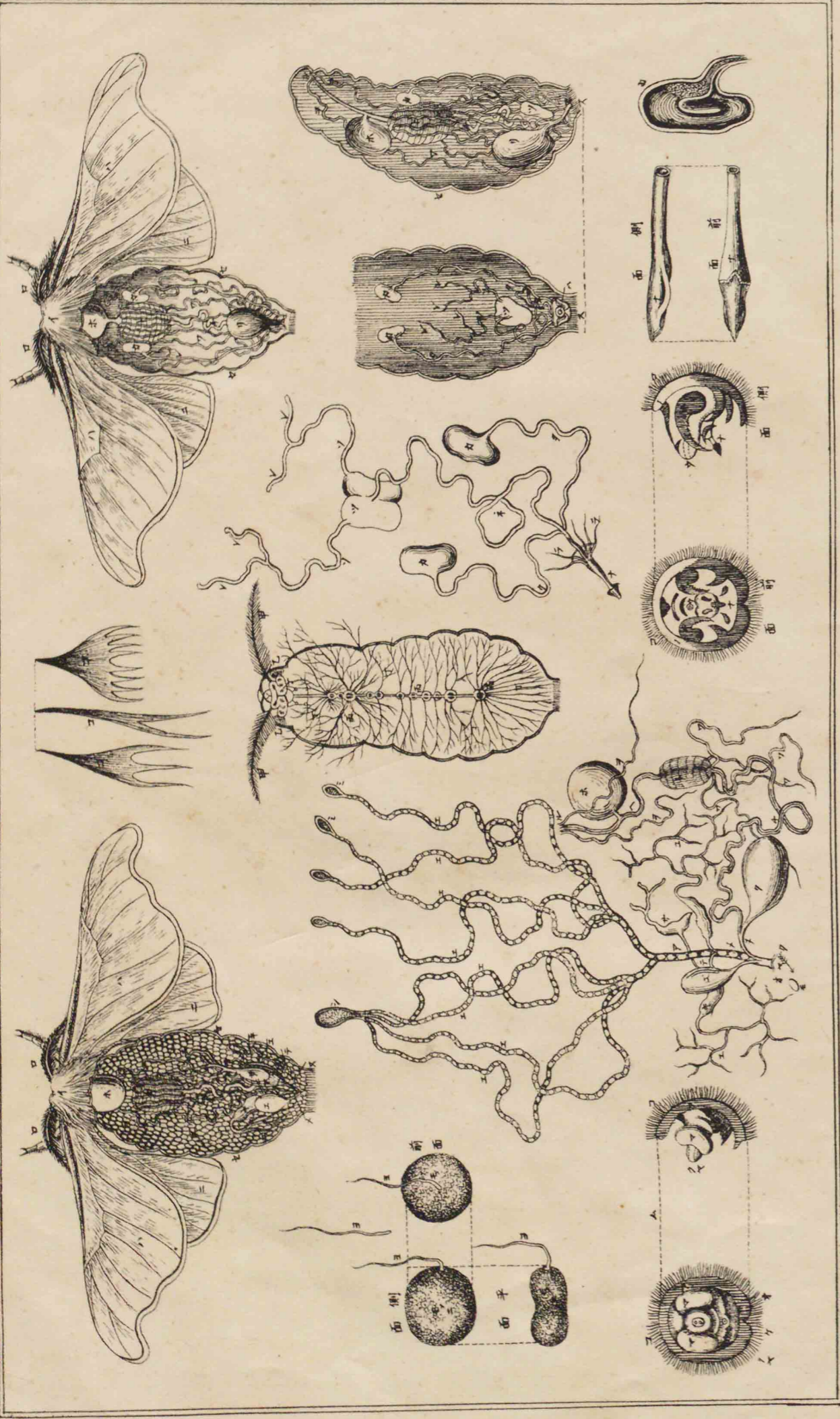
第十三圖ハ蠶室内ノ病毒ヲ消滅センカ爲ニ用フル薰蒸器ナリ其方法ハ碓石五(ボン

ド「鹽酸三(ボン)ド(甲)瓶ニ容レ(乙)酒精ヲ盛リタル瓶ニ火ヲ點シ以テ蠶室蠶具等ヲ薰蒸スルモノナリ

蠶身內外形之器圖



蠶蛾解剖器之圖



解圖病蟲



蠶蛆ノ説

農事月報第二十一號抄録

蠶蛆ハ凡ツ蠶兒ノ成繭後蠶蛾ノ繭ヲ脫出スルニ先チ蠶繭ヲ破リテ這ヒ出ツルナリ
 蠶蛆ノ老成スルモノハ白黄色ヲ呈シ動止頗ル活潑ナリ蠶蛆ハ蠶繭ヲ脱シ出テダ
 後室隅床下又ハ土中ニ這ヒ入り凡ソ七八時間ヲ經テ次第ニ収縮シ軀軀上ニ存スル
 皺ハ盡ク消失シ遂ニ長橢圓形ノ蛹殻トナル其後蛹殻ハ漸々褐色ニ變シ二十六時間
 ニシテ暗褐色ニ變シ四十時間乃至五十時間ニシテ全ク黒色トナル蛹殻ハ長ケ凡ソ
 四分餘アリテ幅凡ソ二分アリ其上端(頭部ト)ハ稍ヤ狭小ナリト雖トモ下端(尾部ト)ハ
 太ク全体ニ數個ノ横條ヲ具フ横條ハ蛆軀環節ノ接線ナリ而シテ蛹殻ハ稍ヤ厚シト
 雖ヒ其質ハ脆ク之ヲ審視スレハ十二個ノ環節ヲ具フ頭端ヨリ第五環節ノ側面ニハ
 一個ノ小凸起ヲ有シ尾端ノ環節(即第十二環節)ニハ肛門及ヒ氣門二個ノ痕跡ヲ具フ
 且ツ氣門ノ間ニハ一小肉質凸起ノ痕跡アリ
 凡ソ蛆ハ蛹殻トナリタル後一週日ヲ經テ其殻ヲ割キ視ルキハ已ニ白黄色ノ蠅蛹ア
 リ軀軀ヨリ頭胸腹ノ三部ヲ具ヘ頭部ハ殆ント三角形ヲナシ其左右ニ腫起物アリ腫
 起物ノ間ニハ又一個ノ小凸起ヲ有シ且ツ頭部ノ前端ニハ二小凸起ヲ具フ又頭部ノ
 左右ニ具フル腫起物ハ複眼ナリ複眼ノ間ニ存スル小凸起ハ單眼ニシテ頭部ノ前端
 ニ存スル二小凸起ハ觸角ニ變スルモノナリ胸部ハ稍ヤ方形ニシテ其前縁ノ兩隅ニ

ハ各一個ノ獨樂狀ノモノヲ有ス是レ呼吸器ナリ又胸部ノ左右ハ一個ノ長橢圓形ノ白囊及ヒ一個ノ小凸起ヲ具フ且ツ胸ノ下部ニハ短小ノ脚ヲ具フ
腹部ハ橢圓形ニシテ其尾端ニ小凸起部アリ是レ後ニ生殖器ニ變スルモノナリ又化蛹後二十一日ニシテ蛹殻ヲ割キ視レハ蛹ハ少シク褐色ヲ帯ヒ軀面ニハ少シク白毛ヲ生ス復眼ハ赤褐色ヲ呈シ翅脚稍ヤ伸長シテ翅ハ少シク皺ヲ生ス又三十五日ヲ經テ蛹ヲ視ル時ハ頭部褐色ヲ呈シ黒毛ヲ被フリ觸角口部ノ器具等稍ヤ全成シ復眼ハ愈赤褐色ヲ呈シ胸部モ亦褐色ヲ呈シ黒キ疎毛ヲ六條ニ縱列ス翅ハ灰黑色ヲ呈シ腹部ハ淡褐色ニシテ淡青色ヲ帯ヒ黒毛ヲ生シ其側面ニハ黒斑ヲ存セリ蛹ハ是ヨリシテ翌年四月(化蛹後凡三百日)ニ至ル迄別ニ變狀ナク爾後蛹ハ土中ニ蟄シ翌年四月中旬頃ニ至レハ幼蠅ハ土中ニ在テ續々蛹殻ヲ脱シ匍匐シテ土上ニ出ツルモノナリ其出ツルヤ必ス頭部ヲ収縮シ或ハ伸長スルノ狀ヲ爲ス大約ソ幼蠅ノ土中ヨリ這ヒ出ツルノ日ハ天氣好ク稍ヤ温氣ノ時ニシテ常ニ午前九時頃迄ヲ多シトスト雖田或ハ九時後ニ這ヒ出スモノアリ凡ソ蠅ノ土中ヨリ出テタル時ハ軀體ノ色更ニ蛹殻内ニ在ル時ト異ナルヲナシ而シテ其出ツルヤ直ニ晝陰ノ場所ヲ撰ヒ茲ニ生息スルヲ大
約三十分許ニシテ全軀漸々色加ハリテ灰黑色トナリ翅モ亦全ク伸長ス是時ニ當
數分時間鼓翼シ後ヲ飛行スルモノナリ

蠶蛆ノ蠅ハ長ク大約五分アリテ頭部ハ三角形ヲ爲シ濃褐色ノ複眼二個ヲ具ヘリ複眼ノ間ニハ三個ノ單眼ヲ齊列ス又頭部ノ前端ニハ二個ノ觸角ヲ具フ觸角ハ三個ノ環節ヨリ成リ其遊離部ニ存スル一環節ハ最田長伸シテ末太シ此環節ト之ニ接スル環節トノ接線ニハ一個ノ黒キ長疎毛ヲ生ス胸部ハ綠黄色ニシテ灰黑色ヲ帯ヒ其背面ニハ五個ノ黒キ縱線アリ縱線ノ間ニ黒色ノ疎毛ヲ縱列ス翅ハ殆ト同脚三角形ニシテ灰色ヲ呈シ其面ニ配列スル所ノ脈管ハ褐色ヲ呈セリ腹部ハ三角形若クハ橢圓形ニシテ黒色ヲ呈シ其尾端ニハ長キ疎毛ヲ生セリ而シテ雌雄ノ區別ハ即チ雄蠅ハ概ネ形大ニシテ腹部ハ三角形ヲ爲シ其左右ニハ赤褐色ナル半球狀ノ斑ヲ具ヘ雌蠅ハ概チ形小ニシテ腹部ハ殆ト橢圓形ヲ爲シ左右ニ赤褐色ヲ呈セザルヲ以テ分別スベシ蠅ハ雌雄共ニ性質頗ル活潑其飛行甚ク迅速ニシテ容易ニ認メ難シ其最モ活潑ナル時ハ午前十時頃迄ニシテ凡ソ桑園ニ飛行スルモノハ盡ク雌蠅ニシテ雄蠅ハ更ニ見ルヲナシ是レ常ニ何處ニ棲息スルヤ未タ知ルヲ能ハザルナリ抑モ雌蠅ハ多ク桑園ニ飛行スト雖田之ヲ見出スト頗ル難キモノナリ其故ハ雌蠅ハ假令桑葉ニ宿スルモ微聲アルヲ悟レハ直ニ疾ク飛行シテ其踪跡ヲ晦マスモノナリ故ニ人略ホ蠅ノ形狀ヲ知ルト雖田其慣習舉動等ヲ熟知ヒサレハ假令桑園ニ蠅ノ宿スルヲアルモ必ス目ニ觸ル、ヲナカルベシ若シ之ヲ見出ストアルモ之ヲ伺フ人ノ足音ニテ飛ヒ去

ルニヨリ容易ニ捕獲シ難シトス然レハ先ツ蠅ノ形狀慣習舉動等ヲ熟知シテ桑園ニ至レハ躊躇シテ動聲ナキ様ニ注意シ以テ桑樹ノ間ヲ點檢セハ必ス葉ノ表裏ニ其止マルモノヲ見ルベシ若シ之ヲ見ルキハ手ゴロノ採蟲網ヲ以テ徐ニ近キ急ニ之ヲ掬ヘハ容易ニ捕獲スルヲ得ベシ而シテ或ハ桑園ニ到リ蠅ヲ見サルヲアルモ暫時靜謐シテ之ヲ待ツ時ハ蠅來リテ先ツ葉面ニ止マリ左右前後ニ徘徊シ後ヲ轉飛シテ葉裏ニ移リ此處ニ兩三個ノ卵子ヲ産下シ又飛ンデ他葉ニ移リ再ヒ之ニ産下ス凡ソ一頭ノ雌蠅ハ數千ノ桑葉ニ産卵スルモノナリ因テ五月中旬ヨリ六月中旬頃迄ニ捕ヘ得タル雌蠅ヲ解剖シテ之ヲ視ル時ハ一頭ニシテ凡六千顆ノ卵子ヲ包藏シ卵子ハ已ニ皆成熟セリ顯微鏡ヲ以テ之ヲ視ル時ハ卵子内ニ已ニ最微ノ白蛆ヲ現ス假ニ一頭ノ雌蠅ハ六千顆ノ卵子ヲ包藏スルモノトシ三個ノ卵子ヲ一片ノ桑葉ニ産付スル時ハ一頭ノ雌蠅ハ能ク二千片ノ桑葉ニ産卵スルヲ推シテ知ル可キナリ豈一頭ノ雌蠅ナリトテ輕々ニ看過ス可ンヤ今雌蠅産卵ノ期ハ大抵五六月ノ頃ニシテ尤モ五月下旬ハ産卵スルヲ夥シ之ヲ蠶兒發育ノ時ニ比スレハ即チ三眠起前後ナリ是時ニ當テ濕地ノ桑葉若シハ枝ニ簇生セル葉ヲ撮リ一々之ヲ點檢スル時ハ往々蠅卵ノ付着セルモノヲ見ル然レハ乾地ノ桑葉幼桑ノ葉結節ノ伸長セル枝ノ葉等ヲ撮リ點檢スル時ハ蠅卵ノ付着セルモノ甚ダ稀ナリ蠅卵ハ必ス桑葉ノ裏面ニ分布セル脈管ノ側部

ニ固着ス其之ヲ固着セシムルモノハ蠅卵ヲ包ミタル一種ノ透明ナル粘膠質ナリ卵ノ子ハ殆ト楕圓形ニシテ一端ハ尖リ一端ハ圓ク其表面ハ膠起シ黒色ニシテ光澤アリ六角紋ヲ密布ス然レハ其裏面ハ平扁ニシテ褐色ヲ呈シ光澤ナク六角紋ヲ存スト雖ヒ尋常ノ顯微鏡ニテハ之ヲ見ルヲ能ハス大約卵子ヲ葉裏ニ産付スルヤ必ス其平扁ナル裏面ニ於テシ曾テ其表面ニ於テスルヲナシ又葉裏ニ付着セル卵子ヲ撮リ之ヲ裏面ヨリ視ル時ハ能ク卵殼ヲ透視シ其内ニ生息スル白蛆ノ蠢動スルモノヲ見ルベキナリ

抑蠅ノ産卵期ハ五六月ノ頃ニ在リト雖ヒ其最モ多ク産卵スルハ五月下旬ニシテ六月ニ至レハ産卵スルヲ甚ダ尠シ何トナレハ蠶兒四眠起以來桑葉ヲ取テ之ヲ閱スルニ五月上旬萌出シタル桑葉ノ六月ニ及ンテ生長シタルモノニハ蠅卵ヲ見ルヲナク唯六月以前ニ生長シタル桑葉ニハ蠅卵ヲ發見ス固ヨリ蠶兒ハ第二眠以來營繭ニ至ルマテ桑葉ト共ニ蠅卵ヲ嚙食スト雖ヒ産卵夥シキ時ハ即チ五月下旬ナレハ恰モ蠶兒ノ三眠前後ナルベシ凡ソ蠶兒ノ三眠及ヒ四眠前後ニ於テ病徵ヲ現ハスモノ甚ダ尠ク唯僅ニ「ホソコ」チ「ミ」病等ノ發スル事アリ其他ノ病症ハ最モ尠シ「ホソコ」チ「ミ」ノ如キハ微粒子病ニシテ寄生蛆ノ所爲ニ非ラス又「フレダカ」ニハ蛆ノ寄生ヲ被フルモノアリ或ハ微粒子病ニ罹ルモノアリ然リト雖ヒ蠶兒四眠後成繭ノ期ニ至レハ

「フシダカ」又ハ「フシコ」ウミコ「ダレコ」等ノ諸病ヲ發スルモノ多ク此等ノ病ニ罹タルモノハ大抵成繭スルヲ能ハスシテ死ス「フシコ」ノ如キハ假令成繭スルト雖モ繭質甚タ薄クシテ繭内ノ病蠶ハ遂ニ「ダレコ」トナリ蛹ニ化スルヲ能ハスシテ死シ遂ニ其繭ヲ汚穢セシムルモノナリ「フシダカ」ウミコ「ダレコ」及ヒ「ザ、イ」成繭ノ期ニ臨ミテ軀體自ラ収縮シテ茶褐色ヲ帶ヒ繭ヲ營ムヲ能ハサルモノノ如キモノ或ハ疎薄ノ繭ヲ營ミ半ニシテ之ヲ脱シ出テ遂ニ營繭スルヲ能ハサルモノ或ハ薄繭ヲ營ミ繭内ニ「ダレコ」トナルモノ或ハ厚繭ヲ營ムモ繭内ニ於テ「ザ、イ」トナリ「ダレコ」トナリ或ハ蛹ニ化セシテ脱皮シ能ハサルモノ或ハ蛹ニ化シテ灰褐色ヲ呈シ軀體柔軟ナルモノハ大約蛆害ヲ受ケタルモノニシテ「フシダカ」「ザ、イ」成繭期ニ臨テ薄繭ヲ營ムモノハ管ニ蛆害ヲ患フルノミナラスシテ微粒子病其他ノ病ヲ患フルヲアリ必ス死シテ蚕蛾ニ化スルヲ能ハサルモノナリ但シ成繭ノ期ニ臨ミ蠶兒ノ氣門ニ褐色ノ斑點ヲ現出シ又ハ繭内ノ蠶兒若クハ蛹ノ氣門ニ褐色斑點ヲ存スルモノハ皆ナ是レ寄生蛆ノ存スル徵候ニシテ養蠶家ノ常ニ熟知スルモノナリ大約蠶兒ハ三眠前後ヨリ四眠後成繭ノ期ニ至ルマテ桑葉ト共ニ蠅卵ヲ嚙食スルト雖モ之ヨリ孵化シタル蛆ノ發育ニ甚タ遅速アリ其遅速アル所以ノモノハ蠶兒ノ健康ノモノト不健康ノモノト別アルニ因ル歟若クハ蠶兒ノ蠅卵ヲ嚙食スルノ遅速ニ因ルモノ、如シト雖モ今蠶兒ニ寄

生スル所以ヲ説明セン凡ソ蠶兒三眠前後ヨリ四眠ノ終ニ至ルマテ蠅卵ノ附着セル桑葉ヲ食スル時ハ卵子ハ蠶兒ノ齒牙ニ觸ル、ヲナキニヨリ更ニ毀損セスシテ直ニ胃中ニ入ル時ハ葉片ヨリ分離ス是ニ於テ蠅卵ハ葉ヲ離レタル後一時間乃至八時間ヲ經ルニ及ヒ其扁平ナル裏面裂クルヲ以テ白蛆ハ出テ、胃中ニ在リ殼卵ハ皆蠶兒ノ糞ト共ニ肛門ヨリ排出ス白蛆ノ始メテ卵中ヲ脱出シタルモノハ軀體透明ニシテ長ク〇、二五ミリミイタル幅〇、一ミリミイタル餘アリテ十二個ノ環節ヨリ成リ每環節ニハ褐色ノ小刺ヲ具ヘ頭部ニハ又狀ノ齒ヲ具ヘ尾部ニハ氣門ヲ存ス軀内ニ氣管ノ配列スルノ狀ハ皮膚ヲ透徹シテ視ルヘキナリ蛆ハ胃中ニ止マルヲ大約七八時間ニシ後胃ノ粘膜炎ヲ破リ出テ胃ノ直下ニ存在スル神經球内ニ穿入ス凡ソ蛆ハ胃ノ粘膜炎ヲ破リ出テ、直ニ其粘膜炎ニ接スル神經球内ニ闖入スルハ抑遺傳ノ性質ニ由ルカ若クハ神經球ニ香氣アリテ之ヲ慕ヒ闖入スルモノ歟其理ハ未ダ確知スル能ハスト雖モ此神經球ナル者ハ十三個アリテ蠶兒ノ環節毎ニ其一個ヲ具ヘ每球皆二條ノ神經絲ニテ相連綴シ神經系ヲナセリ今蠶兒ヲ解剖シテ其内部ヲ視ルニ軀體ノ中央ニハ胃ヲ具ヘ胃ノ上ニハ心臟ヲ具ヘ又胃ノ下ニハ神經系ヲ具フ固ヨリ蠶兒ノ第二第三第四第五ノ環節ニ具フル神經球ト第九第十第十一第十二ノ環節ニ具フル神經球ハ直ニ胃ノ腹面ニ接着スルト雖モ其餘ノ神經球ト胃トノ間ニハ常ニ絹絲腺アリテ

爲メニ其神經球ハ胃ニ接着スルヲナシ即チ胃ニ接着セサル處ノ神經球ハ第六節以下第九節ニ存在スルモノニ限レリ然リト雖モ間々第五節及第十節ニ存在スル神經球モ胃ニ接着セサルヲアリ

蠶蛆ノ胃膜ヲ破リ出テ穿入スル處ハ多クハ蠶軀ノ前部ノ第二節乃至第五節及其尾部ノ第九節乃至第十二節ニ存在スル神經球ニシテ其餘ノ神經球ニハ穿入スルヲ甚ク罕レナリ蓋シ蛆ハ胃ニ接着セル神經球ノミニ多ク穿入シ其餘ノ神經球ニハ穿入スルヲ甚ク罕ナルヲ以テ考フレハ前キノモノハ白蛆ノ容易ニ探知スルカ如クニシテ後チノモノハ之ヲ探知スルヲ甚ク難キニ因ルモノ、如シ蠶兒四眠ノ末若クハ成繭後蠶兒及ヒ蛹ニ褐色斑ヲ帶ヒタル氣門ハ大概蛆ヲ寄生シタル神經球ヲ存スル環節ノ氣門ナリ其褐色斑ヲ帶ヒタル氣門ハ大約蠶兒ノ頭尾ニ存スルモノニ限レルチ是亦蛆ハ蠶兒ノ第五環節以下第九環節マテノ神經球ニ穿入スルヲノ甚キヲ證スルニ足ル抑々神經球ハ神經細胞ノ二塊ヨリ成リテ二塊共ニ外皮様ノ細胞層ノ薄膜ニテ包マレタリ蛆ハ胃ノ粘膜ヲ破リ出テ薄膜内ニ穿入シ神經細胞ヲ食トシ漸次成育ス其漸ク成育スルニ從テ薄膜モ亦從テ膨脹ス其膨脹スルニ從テ薄膜倍々稀薄トナレリ漸クテ蛆ハ薄膜内ニ止マルヲ一二週間ニシテ神經細胞ヲ食シ長ケ二分許ニ達スル時ハ薄膜遂ニ破レテ蛆自ラ軀窩外ニ出テ後多クハ其神經球ヲ具フル環節ニ屬

スル空氣管ノ本幹内ニ闖入シ其尾端 蠶兒ノ氣門ニ接シ以テ大氣ヲ呼吸シ又頭部ハ本幹内ヨリ体窩内ニ出シ脂肪ヲ食トナス是時蠶兒チ外面ヨリ視ル時ハ氣門ノ周圍ニ褐色斑ヲ現ス蠶蛹モ亦同一ナリ故ニ蠶兒ノ氣門ニ褐色斑ヲ呈スル時ハ蠶蛆蠶兒ニ寄生シテヨリ後數日ヲ經タルモノ、徵候ナリトナスヘシ蠶蛆ハ空氣管ノ本幹内ニ入ルヤ之ヲ以テ身ヲ容ル、ノ巢穴トナシ其頭部ヲ蠶兒ノ体窩内ニ出タセル巢穴口ノ周圍ニハ自ラ排出スル汁液ニテ蠶兒ノ脂肪及ヒ筋肉ヲ巢穴ニ附着シテ之ヲ堅牢ニス其後蠶蛆次第ニ成長スルニ從テ巢穴ノ開口モ自ラ廣カリ遂ニ猪口狀ヲ爲ス(猪口狀ノ周圍及ヒ氣門ニ黒褐色ヲ帶ヒタルモノ蛆カ排出スル汁液ノ脂肪及ヒ筋肉ニ觸ル、ノ作用ト蛆ノ糞トニ由ルナラン蛆ハ此巢穴内ニ止マルヲ復タ一週間乃至二週間ニシテ全ク老成シ蠶兒蠶蛹ノ何部ヲ問ハス之ヲ破リテ這ヒ出ツ是レ蠶繭ヲ破ルチ以テ一大患ヲ與フルモノトス夫レ四眠ノ末成繭ノ期ニ近ヅキ「フシダカ」ウミコ「ダレコ」トナルハ大約蛆ノ寄生シタルモノニシテ「フシダカ」ウミコ「如キハ多クハ其神經球ニ蛆ヲ宿シ爲メニ激烈ナシ痲衝ヲ起スニヨリ毎環節之カ爲メニ腫起スルヲ明ナリ之ヲ人類ニ較フレハ宛モ神經痛ヲ患ヘ爲メニ腫起スル所ナルカ如シ又「ダレコ」ノ如キモ多クハ蛆ヲ寄生スルヨリ起レル病蠶ナレトモ「ダレコ」ニ寄生スル蛆ハ亦生活スルヲ能ハスシテ死スルナリ又「フシダカ」ノ如キハ其身苦痛ニ堪ヘサ

ルカ如キモノアレモ猶ホ薄繭ヲ營ミ後繭内ニ於テ「ダレコ」トナリ繭ヲ汚スモノナリ
又四眠ノ末頗ル健蠶ノ如ク見ユレトモ成繭ノ際「ヂ・イ」ノ如ク薄繭ヲ營ミ之ヲ脱シ
出ツルモノ或ハ繭ヲ營ムモ甚タ疎薄ナルモノ或ハ成繭後「ダレコ」トナルモノ或ハ躰
驅ノ數環節腫起スル者或ハ氣門ノ周圍ニ褐色斑ヲ現ス者或ハ蛹ニ化セントシテ能
ハサルモノ、如キ大約蠶蛆ノ寄生セシ者ニ在テハ到底蛹ニ化スルヲ能ハスシテ死
ス又蛹ニ化シタル後ヲ躰驅頗ル柔軟ニシテ活動スルヲナク或ハ氣門ニ褐色斑ヲ有
スルモノモ亦皆蛆害ヲ被フリタルモノニシテ到底蠶蛾ニ化スルヲ能ハスシテ死ス
ルナリ蓋シ蠶兒蠶蛆ノ爲メニ成繭前若クハ成繭後蛹ニ化スルヲ能ハス又ハ蛹トナ
リタル後蠶蛾ニ化スルヲ能ハス今數種ノ實驗ニ據テ之ヲ考フレハ四眠ノ末即チ成
繭期ニ先チ死スル蠶兒ハ大約三眠前後ヨリ四眠起迄ニ蠶卵ヲ嚙食シタルモノ、如
ク又成繭後蛹ニ化セシテ死スルモノハ四眠末即チ成繭ノ前蠶卵ヲ嚙食シタルモノ、
又成繭後蛹ニ化シ爾後死スルモノハ四眠末即チ成繭ノ前蠶卵ヲ嚙食シタルモノ、
如シ而シテ蛆害ヲ被フルモノハ特リ春蠶ニノミ止マラスシテ夏蠶秋蠶ニモ亦多少ノ
蛆害アリ茲ニ春夏秋三種ノ蠶兒ニ寄生スル蛆ノ多寡ヲ概算スルニ春蠶ハ百分中八
十夏蠶ハ百分中四十秋蠶ハ百分中一若クハ二ノ蛆害ヲ被フルナリ蓋シ春蠶ノ他蠶
ヨリ蛆害ヲ被フルコト多キ所以ノモノハ即チ其發生成育スル時ハ恰モ蛆蠅ノ産卵

期ニ際スルヲ以テ其食トスル桑葉ニハ大約卵子ヲ産付スルニ因ル夏蠶ハ蛆害ヲ被
フルモ其害春蠶ノ如ク甚シカラサル所以ノモノハ即チ其發生成育スル時ハ蛆蠅既
ニ死絶ヒ亦産卵スル事ナシト雖モ五月中萌出シタル桑葉ト春蠶ニ與ヘシ嚙餘ノモ
ノトチ混シ與フルコトヨリ之ニ蠶卵ヲ附着スルモノアルニ因ル且ツ五月中ニ萌出シ
タル桑葉ニハ蠶卵ヲ附着スルモ大約枯死シ依然生氣アルモノハ僅少ナルヲ以テ夏
蠶ハ蛆害ヲ被フルヲ復タ甚シトス而シテ六月以來萌出シタル桑葉ニハ蠶卵ヲ見ル
ト甚タ稀ナリ故ニ若シ六月以來萌出シタル桑葉ノミヲ撮リ之ヲ夏蠶ニ與フレハ蛆
害ヲ免ル、ト必セリ然リト雖モ夏蠶ヲ飼フニ六月以來萌出シタル桑葉ノミヲ切り
取りタルモノヲ以テスレハ桑樹之カ爲メニ勢力衰へ翌年善良ノ桑葉ヲ萌出スルヲ
能ハサルノ大患アリ又秋蠶ニ寄生スル蛆ハ夏蠶ヨリ一層甚キ所以ノモノハ大約六
月以來萌出シタル桑葉ヲ食スルニ因ルヘシ假令五月中ニ萌出シタル桑葉ニシテ蠶
卵ヲ附着セルモノヲ與フルニモセヨ其蠶卵ハ炎天ノタメニ枯死シ生氣アルモノ甚
タ稀ナルニ因ルナラン是ニ因テ之ヲ觀レハ春蠶ニ與ヘシ嚙餘ノ桑葉ヲ以テ夏蠶秋
蠶ヲ飼ヘハ蛆ヲ寄生スルノ憂アルモノトシ六月以來萌出シタル桑葉ノミヲ以テス
レハ蛆害ヲ被フルハ甚タ甚シト然レモ桑樹ヲ損害スルハ殊ニ甚シトス寧ロ春蠶
ノミ飼育スルトニ心ヲ用ヒ桑樹ノ栽培成育法等ニ注意シ夏蠶秋蠶ハ飼育スルトナ

キニ如カスト信スルナリ現時蠶蛆ハ全國ノ憂フル所ニシテ其害ヲ被フラサル處ナシ是レ已ニ大患ノ域ニ陥リタリト謂フベシ若シ之ヲ忽ニセハ獨リ養蠶家ノ損耗ノミナラス國家ノ損耗ヲ醸スノ一大原タリ故ニ之ヲ豫防驅除スルハ養蠶家ノ急務トスベキ所ナリ四方ノ養蠶製種ヲ業トスル者ニ忠告セントス想フニ舉世皆ナ此法ヲ實施シ切ニ心ヲ蛆害ヲ除クノ一點ニ注カバ其効豈鮮少ナランヤ然リト雖ヒ豫防驅除ノ方法ノ如キハ固ヨリ左ニ記スル所ノミニ止マラス以來豫防驅除ノ良法ハ尋常ノ養蠶家ニ於テ容易ニ案出スヘキ事ト信ス己ニ良法ヲ案出スヘキ順序備ハルレハ之ヲ案出シ能ハサルヲ左記ノ方法ヲ施行セサルヲハ養蠶家ノ罪ナリ必ス蛆蠅ヲ敵視スルヲ勿レ

蠶蛆ノ豫防法及ヒ驅除法

第一法 凡ソ蛆害ヲ豫防スルニハ桑葉ニ蠅卵ノ有無ヲ検査シ卵子ノ附着セサルモノヲ撰ヒ之ヲ蠶兒ニ與フレハ毫モ蛆ヲ寄生スルノ憂ナシ然レヒ是レ言フベクシテ行フ可ラサルカ故ニ蠅ヲシテ桑葉ニ産卵セシメサルヤフニスルヲ以テ良法トス

第二法 濕地池溝ノ邊樹木陰鬱ノ畔若クハ日光ノ能ク照サ、ル地空氣流通ノ惡キ地ニ植エタル桑葉ニハ總テ雌蠅卵子ヲ産付スルニ適ス然レモ高陵乾燥ノ地大河

ノ邊若クハ空氣流通ノ宜キ地ニ植エタル桑葉ニハ卵子ヲ産付スルニ適セザルモノナリ因テ蛆害ヲ避ケント欲スルニハ先ツ地位ヲ鑒定シ而シテ後之ヲ植ユルニ如カス

第三法 蛆害ヲ避ケンカ爲メ桑樹ノ栽方ヲ改良スルニ際シ已ニ數十百畝ニ植エ付ケタルモノヲ拔キ取り植エ替フルハ極メテ宜シト雖モ頗ル煩勞ノ恐アルヲ以テ若シ之ヲ厭ハ、一畝ヨリ一株若クハ二株置キ取り之ニ接セル畝ノ桑樹ノ株ハ鄰畝ニ存スル桑株ニ對セルモノ、ミヲ拔キ取り順次他畝ニ及ホセハ桑樹ノ成育宜ク空氣ノ流通モ宜ク從テ蠅ノ飛來モ尠カルヘシ又新ニ桑株ヲ植エントスル時ハ少クトモ其周圍ハ四五尺程明ケ置クヲ良トス又處ニ因リテハ只眼前ノ利ニ迷ヒ桑樹ヲ植ルト巨多ナレハ其益モ從テ莫大ナルト誤認シ一反内ニ千株若クハ八百株ノ桑樹ヲ植ルトアリ是レ利アルニ似テ反テ不利ナリ然ル所以ノモノハ他ナシ右ノ如ク過度ニ一範圍内ニ桑樹ヲ植ル時ハ每株土壤ヨリ吸収スル所ノ滋養分ハ自ラ充分ナラスシテ其成育從テ惡ク蛆蠅來リ産卵スルト多カルベシ今一反内ニ千株ヲ植ユル時ハ一反内ニ桑株二三株ノ割合トナリ又一一反内ニ八百株ヲ植ル時ハ一反内ニ二、六株ノ割合トナル是レ實ニ每株ヲシテ充分ノ發育ヲ遂ケシムルノ滋養ヲ與ヘサルモノナリ寧ロ一反内ニ一株許ノ割合ヲ以テ一反内ニ三四百株ヲ植

ルニ如カス右ノ如ク桑株ノ數ヲ減シ植エ置ク時ハ桑樹ノ間空氣ノ流通宜ク且ツ
每株充分ノ滋養分ヲ土壤ヨリ吸収スルヲ得其成育著シカルヘシ蓋シ成育盛ナ
レハ其株數ハ少キモ其効ハ反テ八百乃至千株ニモ劣ラサル可ク且ツ又雌蠅ノ産
卵スルハ少ク從テ煩勞ヲ省ク理ナリ是レ勞セスレテ良桑ヲ得阻害ヲ免カル、簡
易ノ良法ト謂フヘシ

第四法 蠶蛆ノ害ヲ避ケンカ爲メ桑園ノ植エ方ヲ改良セントスルニ當リ籬根雜草
中其他總テ陰鬱ノ地ニ植エタル者ヲ芟伐シ或ハ植エ替フルヲ能ハサル場合アル
時ハ須ク此等ノ桑葉ハ春蠶ノ一二眠迄ニ食ハシメ三眠以後ハ必ス之ヲ與ヘス唯
善良ノ桑葉ノミヲ與フレハ蛆害ヲ被フルヲ少カルヘシ

第五法 早桑ト遲桑トヲ取り先ツ早桑ヲ一畝ニ植エ付ク之ニ接スル畝ニハ遲桑ヲ
植エ付ケ順次早桑ト遲桑トヲ畝違ヒニ植エ蠶兒孵化セハ早桑ヨリ芟伐シ從テ遲
桑ニ及ホセハ終始桑畝ノ間空氣ノ流通宜シ因テ蠅ハ卵子ヲ産附スルヲ少カルヘ
シ

第六法 新樹ノ桑ハ總テ勢力盛ニシテ其枝ハ能ク伸長シ葉々相隔タリ自ラ日當
リ宜ク空氣ノ流通モ宜シキニ因リ蠅ハ産卵スルヲ少ク又老桑ハ概テ勢力衰ヘ其
枝ハ自然短縮シ葉々相接シ日當リ惡ク空氣ノ流通モ自ラ惡キニヨリ蠅ハ産卵ス

ルヲ多シ因テ老桑ト爲リ葉々相接スルニ至レハ可成之ヲ芟伐シテ更ニ新桑ヲ植
フルニ如カス最モ勢力ノ衰盛及ヒ葉ノ萌出スルノ狀ハ畝ニ新桑ト老桑ニノミ止
マラスシテ桑樹ヲ栽培スルノ巧拙ニモ因ルヘシ又肥料ノ施方ニモ因ルモノナレ
ハ宜シク注意シ桑葉ノ桑接セサルヤウ爲サ宜シトス

第七法 夏蠶秋蠶ヲ養フハ桑樹ノ爲メニ宜シカラス是レ實ニ桑樹ノ勢力ヲ減シ翌
春萌芽ノ期ニ臨ミテ桑枝ノ伸長充分ナラサルノ憂アレハナリ

第八法 「ウミコ」ダレコ「フシダカ」「ヤ」「イ」ノ類ハ大約蛆ヲ寄生スルモノナルヲ以テ到
底其繭ヲ營ムヲ能ハサルト認ムル時ハ盡ク取集メテ之ヲ盪水石灰水若クハ石鹼
水ニ浸シ蛆ヲ殺スベシ若シ徒ラニ之ヲ路傍ニ棄置カバ蛆ハ翌春ニ至リ蠅トナリ
産卵スルノ憂ヒアリ

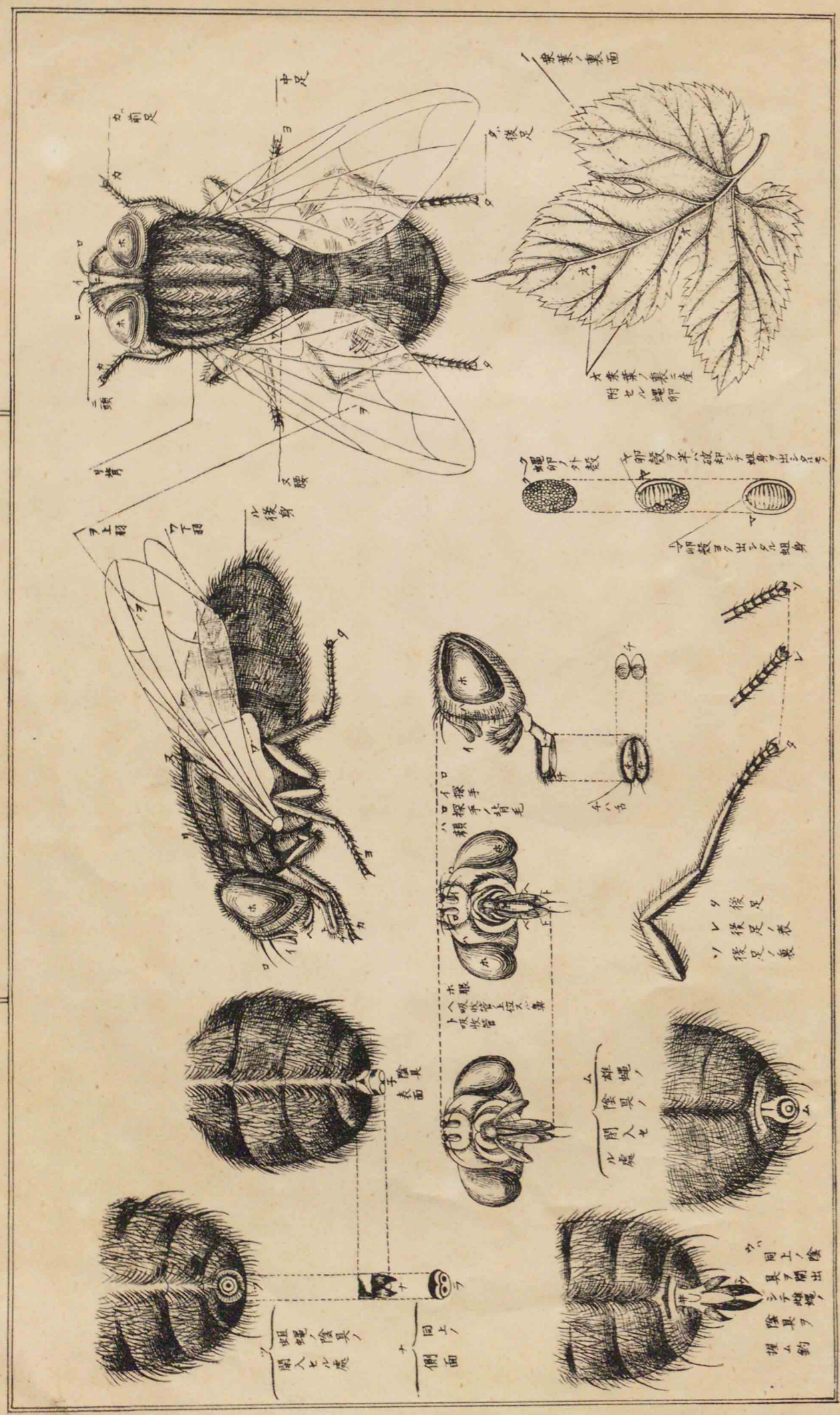
第九法 五六月ノ頃ニハ雌蠅桑園ニ飛行ス此等ハ見當リ次第ニ捕ヘ殺スベシ一隻
ノ雌蠅ダリトモ忽諸ニス可ラス是レ一隻ノ雌蠅ハ六千粒以上ノ卵子ヲ包藏スレ
ハナリ

第十法 蠶兒ニ寄生スル蛆ハ全ク防禦シ得ルモ「クハコ」及ヒ「コキノキ」ニ寄生スル一
種ノ刺毛蟲ニモ同種ノ蛆ヲ寄生スルニ因リ敢テ豫防法ヲ盡セリトスヘカラス故
ニ「クハコ」ハ勿論刺毛蟲ハ盡ク捕ヘ殺スベシ但シ他蟲ニ此等ノ寄生スル者必ス數

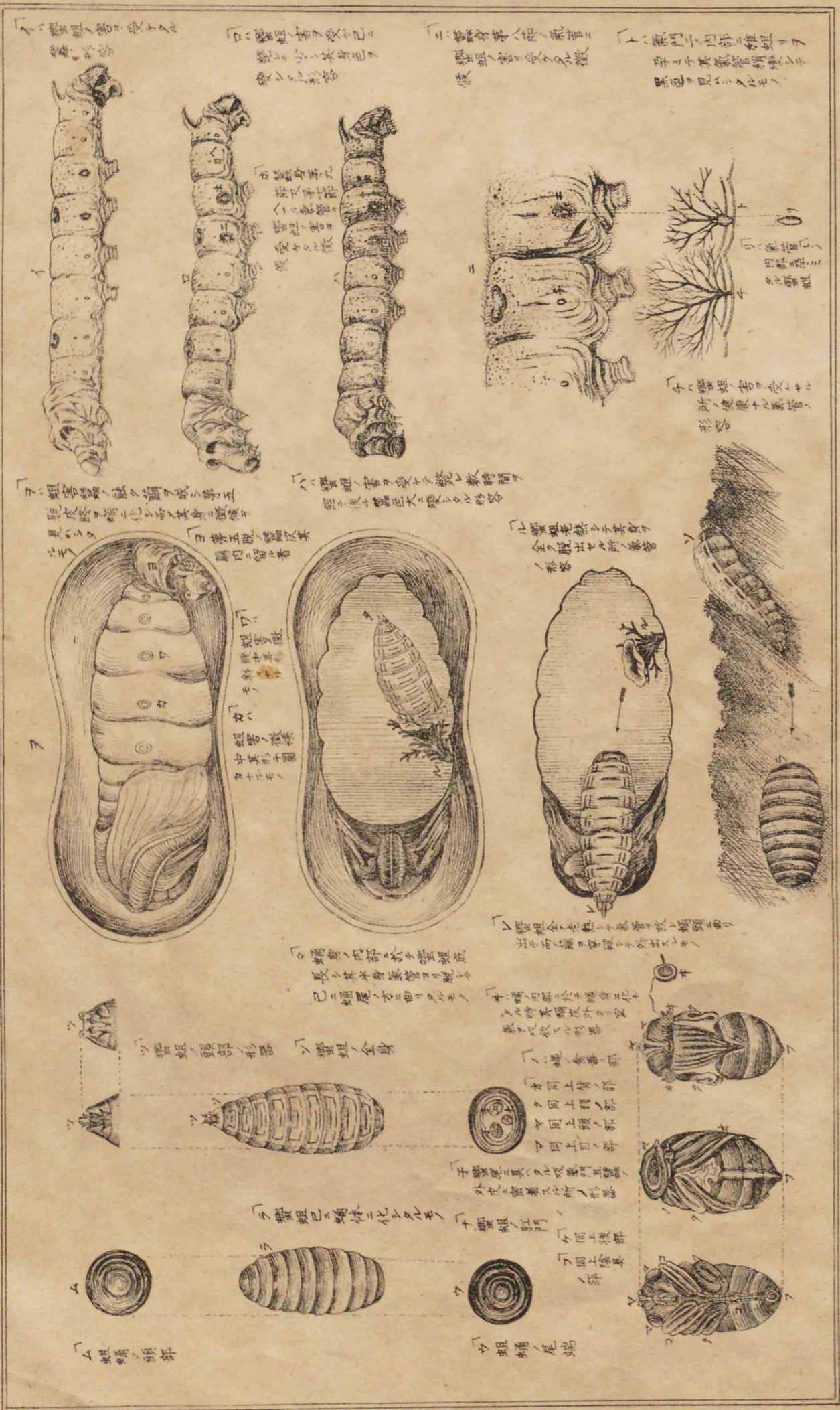
多アルベシ之ヲ探求スルモ亦一ノ豫防法ナリ
 第十一法 蠶繭ヲ蒸セハ(火氣及ヒ蒸氣)蠶蛹蠶蛆ヲ併セ殺スヲ以テ宜シト爲スト雖
 トモ之ヲ日光ニ晒乾スルハ惡シ、トス何トナレハ日光ハ風雨等ノ模様ニテ温度
 均シカラス或ハ蛆之カ爲メニ反テ成長ヲ速ニシ乾燥中繭ヲ破リ土中又ハ床下ニ
 入り此處ニ蟄シ翌年蠶トナルノ憂アリ故ニ若シ日光ニ蠶繭ヲ晒乾スルハ婦女
 子等蠶繭ノ側ニ座シ蛆ノ繭内ヨリ這出テ監視シ盡ク捕ヘ殺シ一頭タリトモ見
 逃カスト勿レ

第十二法 養蠶ノ地ヲ隔タリタル處ニテ新ニ開墾シタル地若クハ人家隔タリタル
 山地ニ新ニ桑ヲ植ウル時ハ兩三年間其桑葉ヲ蠶兒ニ與フルモ蛆ヲ出スルコトナシ
 ト云フ其說然リ然ル所以ノモノハ新地ニ植付ケタル桑ハ蠶未タ之アルヲ識ラス
 シテ(假令蠶飛行ノ際其所在ヲ認メ來ルモ其數兩三年ハ許多ナラサレハ其産卵從
 テ尠ク因テ蛆モ從テ僅少ナラン又幸ニシテ之ヲ見留メサレハ蠶兒ハ蛆ヲ寄生ス
 ルコトナキコアルヘシ)來ラサルナリ兩三年ノ後ニ至レハ蠶復タ桑ノ在ル所ヲ識リ
 又此ニ來リテ産卵スルニ因リ再ヒ蠶卵ヲ蠶兒ニ與フル媒介トスルモノナリ因テ
 是レ亦良法トスルニ足ラス

蠶形解剖器之圖



蠶之解剖之生蛆圖



全 明治二十一年八月 日印刷
年八月 日出版

兼編
出版
人輯

鈴木貞太郎

東京府北豐島郡西ヶ原村
農務局蠶業試驗場内

高野三子之進

東京府北豐嶋郡西ヶ原村
農務局蠶業試驗場内

印刷
人

小野寺文庫

群馬県立図書館



0499679-9